

第53回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成30年7月27日（金）午後6時30分～午後8時24分

場 所 本庁舎 第一会議室

出席委員 11人

委員長 日向 信 和 委員

副委員長 渡 邊 大 輔 委員

委 員 岡 田 一 美 委員 村 田 淳 委員

本 田 哲 朗 委員 鴨 下 明 子 委員

荒 城 真 美 委員 中 村 彰 宏 委員

鹿子木 将 登 委員 天 野 建 司 委員

加 藤 明 彦 委員

欠席委員 1人

森 田 眞 希 委員

---

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課主任 東 條 俊 介

企画政策課主事 齋 藤 彬 子

---

傍 聴 者 0人

（午後6時30分開会）

◎日向委員長 皆さん、こんばんは。台風が近づいている中ですが、第53回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

本日ですが、森田委員から欠席の連絡が入っております。それから、岡田委員と本田委員、中村委員から出席が遅れるとの連絡をいただいておりますので、御報告いたします。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立することになってございます。12人中11人御出席をいただいておりますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げます。

それでは、配付資料について、事務局のほうで確認をお願いします。

◎事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただいたものが1点ございます。

資料1「提言に向けて（たたき台）」でございます。A4、1枚の資料でございます。

それから、委員提出資料として机の上に配付をさせていただいている資料が1点ございます。

委員提出資料1「第7期市民参加推進会議における提言たたき台への補足」、こちらもA4、1枚の資料でございます。

不足しているものがございましたら、お申し出いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

最後に、お手元に前回、第52回の会議録をお配りしております。こちらは既に確定しまして、ホームページにも先日掲載したものでございます。後ほど御確認をいただければと思います。

次に、前回の会議で御質問いただきまして持ち帰らせていただいたものがありましたので、御説明させていただきます。

前回資料3「パブリックコメント実施状況調査」におきまして、介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画のパブリックコメントの公募期間が平成30年1月27日から平成30年2月5日までの10日間と短い期間となっております。この理由について確認いたしましたところ、介護保険制度における国の報酬改定等が平成29年の年内に示されず、年明けとなったことによるものでございます。年明けになったことに伴いまして、計画の策定が後ろ倒しになる一方、4月1日から介護サービスを適正に運用するために、条例や予算を第1回市議会定例会で審議する必要がございまして、そのために2月上旬には議案の提出締め切りとなる都合上、公募期間が長くとれなかったという事情でございます。

説明につきましては以上でございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

それでは、次第の2「市民参加条例運用状況等について」、(1)「今後の審議について」を議題といたします。

事務局からの説明をお願いします。

◎事務局 それでは、資料1「提言に向けて(たたき台)」を御覧いただきたいと思います。

事前に日向委員長、渡邊副委員長と相談させていただきまして、市民参加推進会議において、今期いただく提言に向けまして、今まで御議論いただいた内容をまとめ、今後の検討を進めていただくためのたたき台の資料となるものでございます。

まず、1番、今期の議題についてでございます。今までの検討内容を踏まえまして、「若者の市政参加を進めるための方策について」とまとめております。

2番、今回想定する若者の年齢層でございます。対象となる若者を①大学生を中心とした20代前半、②20代後半から30代前半、こちらのどちらか一方か、またはその双方か、どのように設定するかを決めるためにたたき台を提示させていただいております。

次に、3番、検討事項(例)でございます。今後、この会議でどのような検討をしていくかということについてまとめております。

①審議会等行政への若者の参加推進方策です。行政への若者参加のための方策として、議論に挙げたものを4点まとめております。1点目、過去の提言の検証・具体化、2点目、今年

度より市が行っている長期計画の策定プロセスにおける方策の検証、3点目、連携協定大学への働きかけ、4点目、審議会等への参加を通じた新しい繋がり作り、キャリア支援等。

続いて、②その他若者の市民参加推進方策ということで、多世代交流の推進、市民参加事業における飲食物の提供、SNSなど多様な広報・コミュニケーション手段の検討とまとめてございます。

4番は、当面の日程につきまして予定をまとめているものでございます。御確認いただければと思います。

なお、資料に12月頃、ワークショップ実施と記載をさせていただいております。こちらにつきましては、平成33年度からの新たな長期総合計画の策定に向けまして、市民の方々の御意見等を伺うために実施するワークショップについてお示ししているものでございます。

続きまして、委員提出資料1「第7期市民参加推進会議における提言たたき台への補足」こちらについて御説明させていただきます。渡邊副委員長より提出いただきました資料となります。

先ほどの資料3番、検討事項の補足としまして、3点挙げていただいております。1点目、基本計画策定における市民アンケート調査において、市政参加への意向等を分析する。2点目、基本計画策定における市民ワークショップの実施体制への提言と実際の参加状況の検証。3点目、ワークショップのファシリテーションを行う市職員らへのヒアリング及び実行可能な市職員や市民への研修及び修正提案等という御提案でございます。

なお、市民アンケート調査につきましては、こちらも平成33年度からの新たな長期総合計画の策定に向けて実施するもので、現在実施をしているところでございます。

説明につきましては以上でございます。

◎日向委員長 事務局の説明は終わりました。今まで御議論いただいたことを再整理して、提言に向けて今後、どういう議論を進めたらいいかというのをわかりやすくまとめたということで御理解をいただければと思います。

渡邊副委員長、何か補足とかありましたらお願いします。

◎渡邊副委員長 こちらのほうの提言に向けてのたたき台につきましては、今、委員長からも御説明がありましたように、私もかかわらせていただいて、これまでの議論を集約してまとめるという形となっております。この提言のたたき台を作成していく中で、あと、こういったものもやってはどうかという形で補足的に提案させていただいたものがこちらとなります。今、事務局から御説明がありましたが、少し私からも補足いたします。

先に、まず、間違いなんですけど、基本計画になっていきますが、長期総合計画です。申し訳ございません、いろんな自治体で名前が違うので。長期総合計画と考えてください。

まず、1点目ですが、市民アンケート調査を長期総合計画の策定において行われているという形となっております。やはり市政参加ってなかなか難しいですし、多様な市政参加の形態がありますので、そういった結果をこの場所でもしっかりと確認、分析しながら、参加のあり方

について議論したらどうかということとなります。要は、机上の空論だけでは、我々のイメージだけでやっているだけだと、どうしても限界が出てきますので、せっかくちゃんとしたアンケートをコストをかけてやっていますので、それに基づいた議論をしていってはどうかというものとなります。

2点目ですが、この長期総合計画の策定において、市民ワークショップを行うということを伺っております。1期前の第6期でワークショップの提案等を行っておりますが、じゃあ、実際に前の委員会で行った提案がどこまで反映されているのか、そのことをしっかりと効果検証する必要があるだろうと。また、同時に、さらにこの委員会等でもワークショップについて、もっとこんなことができないかということの議論を積極的に行ったものを提案したり、あるいは何で難しいのかということを確認するということも必要なのではないかと。そのことを踏まえて、最終的な意見というものを提言に向けて考えていけばどうかということで、こういったことを書かせていただいております。

3つ目なんですが、これは少し事務局とかとも会話等をさせていただく中で出てきたものとして、ワークショップを行うとなると、市民を集めて、できれば小グループで議論をするわけです。でも、当たり前なんですが、議論をしてくださいと言っても、議論なんかできる人、まじないんですよ。よっぽどのがない限りできません。そのために、議論のファシリテーターというのが必要なんですが、じゃあ、ファシリテーターは誰がするんですか、えっ、私たちですかというのが実際の職員の方々ももちろんそうですし、また、市民の方々も同じことが起きると思います。やっぱりファシリテーターをどうやったら行うことができるのか、あるいはファシリテーションの能力をどのようにすれば高めることができるのかという点も考えていかないと、場合によっては、ワークショップをいつまでたっても外部に発注し続けて、それはいいんだけど、コストが高いし、何かもったいないよねという状況があるので、そのことをやってはどうかと思っております。

また、実は私、武蔵野市で長期計画の策定にもかかわっているのですが、今年から今回の長期計画策定で新しく始めたこととして、実はこれまで武蔵野市で市民に対してファシリテーション能力を上げる研修事業というのをやっているんですけども、その研修の卒業生に市民参加のワークショップのファシリテーションをお願いするということを始めようとしています。要は、せっかく講座をやっているんだったら、講座の卒業生にかかわるみたいなこと、こういう回る仕組みとかもちょっと考えていけるということも、どこまでできるのかといったこともあわせて考えていくと、もうちょっとファシリテーション能力を上げましょうというだけじゃなくて、もっと具体的にこうしたら上がるかもしれないとか、そういうことも提案できるかなと思っております。もちろん、これは市の職員の方でもいいと思うので、そういったことも踏まえて、ただ高めてくださいと言うとお願いだけで終わっちゃうので、こうしたらどうかという提案も、もう少し具体的にしたらどうかという形で、ここでは簡潔に書かせていただいております。

私からの補足は以上となります。

◎日向委員長 ありがとうございます。

それでは、これから皆さんから御意見をいただこうと思うんですけども、まず、提言に向けてのたたき台で、今期の議題のところ、これは皆さんと確認したものをもう一回、上げさせていただいているので、ここはよろしいですね。特に。はい、ありがとうございます。

それで、2番と3番なんですけれども、年齢層のところはやや複数の意見があって、定まらなかったと思います。2番をどう考えるのかということと、あとは3番で今までいろいろ御意見いただいたのを踏まえて、このような形で整理をしたんですけども、何かこういうものが入っていないんじゃないかとか、また、こういう点も大事なんじゃないかというような御指摘もいただければと思いますし、渡邊副委員長から補足いただいた点についても、もし皆さん、お気づきの点があれば、御意見をいただければと思います。特にどこからということをあえて決めませんので、皆さんのほうで何か御意見等があれば伺わせていただこうと思いますが、いかがでしょうか。質問でも何でも結構です。

なかなか出しづらいですか。どうですかね、今まで議論してきた中で、これからに向けてこういうことを深めていくということで、意見を整理したんですけど、このことについて、大体こんな感じでいいのか、それともちょっとここ、違うんじゃないかとか、どうですかね。大体こんな感じかなと思って、副委員長と事務局と相談して整理してみたんですけど、何かお気づきの点とかあれば、ぜひお願いします。

御意見いただくまで、発言させていただこうと思いますが、今回想定する年齢層のところなんですけど、ここはたしか今までの御議論だと、ある程度、絞ったほうがいいんじゃないかという御意見と、まあ、別に広く考えてもいいんじゃないかという御意見とかあったように記憶してまして、またもう一回、出させてもらったんですね。今の時点で、どうですか、今後議論する中で絞れていけばいいという考え方もあると思うんですけども、まだ絞るのは早いという感じでしょうかね。もし何かあればお願いします。

◎鹿子木委員 僕は最初は、少し広めに年齢層のところはとったほうがいいのかという意見を出させていただいたんですけども、皆さんの意見を聞いていく中で、大学との連携ですとか、あとは荒城委員とかのお話とかも伺って、大学生を中心とした、少し若い20代前半という年齢層に向けて何か市政参加を進めるような方策がとれるのがあるのかなとちょっと最近思ってきたので、どちらかという①、ちょっと絞った形でやるのもいいのかなと思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。御自由にどうぞ。

◎荒城委員 年齢を絞るというので、①か②か、または①、②と書いてあるんですけども、20代後半から30代前半って、すごく忙しそうイメージがあって、そういう人たちと大学生って、わりと時間にゆとりがある人はあったり、アルバイトがある人はないんですけども、この人たちと一緒にすることでスケジュールの調整とかが難しくなると思うので、どっちかに

分けたほうがいいのかないと私は思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

中村委員、今、提言に向けてのたたき台と、あと、当日の配付資料で、渡邊副委員長の補足という資料がありまして、そのことについて、とりあえず今、委員の方から自由に御発言をいただいています。今期の議題はもう確認したところなので、2番と3番、どう考えますかということで、今、御議論していただいております。

ほかにいかがでしょうか。今、鹿子木委員からは①のほうという意見、荒城委員からは①と②、全然、生活パターンが違うので、あまり一緒というのはどうなのかという御意見をいただいたところでもあります。ほかの委員の方で何かあればお願いいたします。

◎鴨下委員 ①のほうがいいかなと思いましたが、その理由としましては、大学生のほうは既にコネクションというつながりがあると思うので、入りやすい問題なのかなと思ったことが理由です。やりやすい、広げやすい、募りやすいのかなというイメージです。②だと、ここをターゲットにどうやって集客というところとあれですけど、人を集めるのかなというのがちょっと課題かなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

今、2番が議論の中心になっていますけれども、3番でも4番でも、渡邊副委員長の補足資料でもどこでもいいので、お気づきの点があれば御遠慮なく御発言ください。

加藤委員、天野委員、何かあったら。

◎天野委員 今回、提言のたたき台を出していただきましてありがとうございます。渡邊副委員長のほうから補足ということで、小金井市、現在、第4次基本構想という最上位計画が平成23から平成32ということで今やっております。それがまた平成33から平成42の10年間の最上位計画を作るという作業にこれから入っていく中で、当然、市民参加でそういった計画を作っていきますが、市民参加推進会議という審議会が最上位計画の策定に何らかの形でかわっていくという、コラボしていくというのは非常にいいなと思っております。今後、基本構想策定のほうも長計審という審議会を作っていくんですけども、そういった審議会と何らかの形で刺激というか、交流が持てれば、さらにおもしろくなっていく展開が生まれるのかなと感想ではありますが、思いました。

それから、今、年齢層という形で①、②という形で御意見が出てございます。大学生を中心とした20代前半の方というのは、非常になかなかこれまでも市民参加が難しいというところで、非常に悩みどころといたしまししょうか、そういったことも踏まえまして、小金井市、大学と連携協定を結んでやってきているところでもあります。しかしながら、人口動向を見ますと、今、12万人を超えて、小金井市の人口が増えているんですね。ただ、危惧しているところが、20代前半あたりは大学とかがあるので、割方、増える傾向というか、維持しているんですが、20代後半からたしか30代前半あたりかな、まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョン

で見たところ、ここが人生の変わり目なんでしょうか、小金井市から転出される方が多いというところで、ここが小金井市の課題ともなっているところなんです。両方共です。僕とすれば、①も②も大きな課題かなと思っているので、例えば①②両方とするということも書いてあるので、20代前半から30代前半とか30代後半までとか、そのぐらいのターゲットも、一つ、考え方としてあるのかななんて思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 今の天野委員の御発言で1点、確認させていただきたいと思いますが、おそらく20代後半から30代前半ぐらいの人口が減っている、あるいはほかに比べ総体的にはあまり変わらないということ、おそらくはこのあたりのどこの自治体も似た感じだと思っているんですが、その要因が何であるのかということだと思っただけですね。それは端的に言うと、子育て世代が子育てが始まるぐらいのころに地価の安いところに、つまり、より西側に、あるいはもうちょっと上のほうに移動していくということであるのか、もう少し別の要因が起きているのか、ちょっと把握していないので、もし何かわかりましたら教えていただければと思います。

◎天野委員 市民課で転出される方にアンケートをとっていたということは多分なかったとは思いますが、一応、今、言われたようなことを裏づけるようなデータとしては、小金井から近隣の小平あたりだとかの転出状況が多いんですね。そういったことから考えていくと、今、副委員長が言ったような地価の問題ということが想像できるということがありました。

◎日向委員長 はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

今までの議論を整理させていただきますと、前半の委員の方からはどちらかにしたほうがいいんじゃないか、特に大学生を中心とした20代前半を対象としたほうがいいんじゃないかという御意見がありました。その後、天野委員からは市の立場として20代後半から30代前半の転出が多いという部分で非常に苦慮しているので、ここをどうしていくのかということのも悩ましいところであるという御発言があったと思います。どうするかということなんですけれども。一つはここで決めてしまうというのがありますし、とりあえず、今日は今までの議論を整理して、皆さんにもこれまでの議論がどうだったかというのを整理して見ていただくという機会にもしておりますので、それぞれの世代ごとに課題があるということかなとは思いますが、どうでしょうか。ここでもし決まらないということであれば、引き続き、この年代、このくくりを意識して、皆さん、それぞれ御発言をしていただきつつ、まとめの段階に差しかかってきて、どういうふうを書くかということになってくると思いますので、一応、世代としてはこの2つの世代を意識しながら、我々としては発言をさせていただくと。最終的なまとめに向けては、議論が深まれば、ある程度、深まるほうを対象にしながら書いていくということに自然となっていくかなと思っておりますので、あえてもうここで絞らなくてもいいのかなと。

ただ、御発言いただくときには、ある程度、どの年代を念頭に置いて発言していくのかというのは、我々、意識していかないといけないかなと思うので、とりあえず、今の時点では、なかなか一つに絞るのは難しいかなと、感じています。この会議、今日の場合でもし深まって、どちらかと絞ればいいとは思いますが、そこは絞れなければ、また引き続き議論を続ける。ただ、御発言のときには、必ずどちらかの世代を意識して発言をしてもらうということかどうかと、今、聞いていて感じました。

ほかの3番でも結構ですし、2番の部分で、いや、私はこう思うというところがあれば、また引き続きお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。当然、議論が決まればそれでいいと思うんですけど、深めていくということが多分、この会議の場で大事だと思うので、どうぞ御遠慮なさらずに、ぜひ御自由に御発言をいただければと思います。いかがでしょうか。

3番のところも、皆さんの御発言を聞くと、こうまとまるかなと思って書いてはいるんですけど、自分の発言した内容でこういうのが入っていないじゃないかとか、そういう御指摘でも結構ですので、積極的に御発言をお願いします。

◎荒城委員 すみません、質問いいですか。

3の①の3つ目のところの括弧のオブザーバー等のオブザーバーって何ですか。

◎渡邊副委員長 オブザーバーというのは、多分、私が出したような気がしますが、私のほうから説明いたします。

例えば、こういった市民会議、その他の委員会というのは、基本的に発言権があるのは委員の方です。例えば、傍聴の方は見ることはできるんですが、発言権はないんですね。例えば、こういった会議って、短いものであれば半年間ぐらいで終わるんですが、長いのは2年とか3年とかかかる場合もあります。でも、学生って4年間しかいないわけで、例えば4年生のときに参加したい人があっても、2年間ですと言われると、ちょっと、えっとなっちゃったりもします。あと、毎週何曜日が休みかというのも学年が変わると変わってしまうかもしれないです。じゃあ、そういうふうになると、なかなか学生が、あるいは大学生とか大学院生とかで委員になってもらうのは難しいのかもしれないんですが、じゃあ、傍聴してくださいと言っても、発言権なく傍聴しても、何も楽しくないという状況があります。なので、例えばオブザーバーという形で、正式な委員ではないものの、要は発言権があるような形で参加してもらって、発言ができるような形にする。オブザーバーとか、あるいは準委員とか、形は何でもいいと思うんですが、そういうような形態が一個あるのかなと思っています。

また、もう一つは、例えば授業とかサークルとして数人がまとめて参加する。そうすると、毎回1人が参加すると結構きついと思うんですけど、例えば4人とか5人とか授業の人がいて、じゃあ、1回目はAさんが、2回目はBさんがという形で持ち回っていくことも場合によってはできるかもしれないと思っています。これもやはり委員というのは基本は1人、同じ人間が参加し続けることが前提になっていますので、委員とは言えない。そうすると、オブザーバーとして、少し柔軟な形で参加し、できれば発言できるような形で参加できるということを考え



ると、ここではオブザーバー等という形になって表現しています。

◎荒城委員 ありがとうございます。

◎日向委員長 ほかの委員の方も質問でも結構なので、ぜひせっかくの機会なので。

◎渡邊副委員長 私から質問すると、というような参加形態をこれまで小金井市での事例は、オブザーバーというのは存じませんが、オブザーバーというのはあるのでしょうか。

◎天野委員 まず、審議会の委員さん以外の参加の手法としては、ここの市民参加推進会議でもやっていますけれども、意見・提案シートというような形で文書で何か気がついたことがあれば提案していただいて、審議会でもたその課題について話し合ったりということは行っています。それから、傍聴者の発言ということは、基本的にはないとは思いますが、どうしても審議会でも発言したいという方がいたときに委員の皆さんに御承認をとって発言の時間をとるといったことは私はちょっと経験したことはあります。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎荒城委員 今のオブザーバーの話がすごくいいなと思っていて、今までなかったという話を聞いて、学生を対象にするんだとしたら、これってさっき渡邊委員が言っていたとおりだなとすごい思っていて、毎回毎回、同じようにあけておくというのは厳しいので、オブザーバーの案がすごくいいなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎鴨下委員 質問なんですけど。先ほど提言に向けての4番の12月頃、ワークショップ実施というところで補足でおっしゃってくださったんですけど、平成33年から始まる長期総合計画の中のワークショップのような発言に聞こえたんですけど、それはどういったことなのかなという、長期総合計画というのは何なのかということと、既にそれが今年の12月にもうワークショップとしてあるところがあまり私の中ではつながらなかったんですけど。

◎日向委員長 事務局、お願いします。

◎事務局 長期総合計画といいますのは、小金井市の場合は、まず、基本構想というのを10年単位で定めまして、それからその10年を前期5年と後期5年というような形で基本計画というのを作ります。それが長期総合計画ということになるんですけども、こういった10年間の市の大きな方針というところを決めていきますので、平成33年って、まだまだ先のことのようにも思うんですけども、今年度から市民の方の意見をいただくために市民アンケートとか、この12月に予定しているワークショップとか、そういったものをもう既に今年度から始めていきまして、それから平成31年、32年と検討を重ねて、それで33年からの計画を作っていくというそんな形になります。

よろしいでしょうか。

◎鴨下委員 わかりました。ありがとうございます。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎荒城委員 2番の一番最後にSNSの活用、柔軟な運用体制の構築ってあるんですけど、自分の勉強不足だったら申し訳ないんですけど、実際、今、SNSの活用ってどうなっているのかなというのをお聞きしたいです。

◎日向委員長 事務局、いかがでしょうか。

◎事務局 今、小金井市で行っていますのはツイッターでございます。ただ、いろんな情報を発信していくということには使っているんですけども、それを相互にコミュニケーションとか、そういった方向ではまだ実施できてないというような形で、市のいろんな課がそれぞれの情報を発信するということはやっています。

◎荒城委員 ありがとうございます。

◎渡邊副委員長 今のに重ねてちょっと質問させてください。

例えば、リプライがあったときにも返事はしてないということなんでしょうか。

◎事務局 してないです。

◎渡邊副委員長 じゃあ、完全にリツイートもしないし、返事もしないと。

◎事務局 はい。

◎渡邊副委員長 それは寂しいですね。わかりました。

◎日向委員長 前にも聞いた記憶があるんですけども、フェイスブックとか、動画を使った広報とか、最近だとインスタグラムとか、結構、いろんな媒体が出ていますけど、そういったものも今は使っていないと。

◎事務局 ございませんね。ツイッターもまだ試験運用みたいな形で運用されている状況です。

◎日向委員長 わかりました。ありがとうございます。

いかがでしょうか。

◎加藤委員 一ついいですか。

私が以前、総務というか職員の人事にいるときに、いわゆる採用試験のホームページに先輩職員のメッセージという動画を載せたことがありまして。今まで市役所の募集要項のイメージって活字ばかりが並んで、単純にここに記載して、これ出してください、これが申し込み用紙です、そういうイメージだったんですね。そこに、今いる若い職員が実際に仕事をしてみて、市役所の中ってどんな仕事で、どういうやりがいがあって、また悩みもどうだみたいなものを、今から結構前ですね、多分、20年ぐらい前にですけど一度、それをホームページ上にリンクで張って乗せたことがあったんですね。そこだけで誰が見たかというカウンターをつけるほどの細工がその当時はできなかったの、どのぐらい見られたかというのはわからないんですけども、ただ、今回の採用の案内を何で知りましたかというアンケートを一度、申し込みのときにとったときに、結構、ホームページを見てというのはあって、多分、それは見ているんだろうなど。平均年齢が若い市ですと、若い人が活躍できる場が職場の中にありますよとか、そういうようなものを広報すると、あっ、ここは若い職員が多いんだったら行ってみようかなと

いうきっかけにもなるといふことでの広報というのはしたことがあって、これは採用試験というちょっと狭い範囲の話ではありますが、市から若者に対してそういう形でのものというのは過去にはしたことがありますね。ちょっと参考までに。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 1点、補足のさらに補足なのですが、先ほど御説明した私からの提出資料のAの市民アンケート調査なのですが、これは実行していたのか、今からなんですか。おそらくそのデータが分析できるか、今、どういう状況なのかについて御説明いただければと思います。

◎事務局 市民アンケート調査につきましては、ただいままさに実施中でありまして、7月20日に発送させていただいて、期限が8月13日とさせていただいております。最終的な取りまとめのところまでには結構、時間がかかるんですけども、9月中ぐらいに速報の集計は出ると聞いておりますので、そこで何らかのものは見れると考えております。

◎渡邊副委員長 どのぐらい送っているんですか。

◎事務局 2,000ですね。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎鹿子木委員 今のところでちょっと質問なんですけれども、2,000発送しているというのは、これは本当にランダムに送っているような形なんですか、それともある程度、若者に向けての発送なのか、そういったところをお聞きしたいんですけれども。

◎事務局 市内にお住まいの満18歳以上の方、2,000人ということで、無作為抽出をさせていただいております。

◎日向委員長 ですから、今の御説明だと、年齢とかそういうものを考慮してないということですね。

◎事務局 そうですね、この年代の方に絞ってとかということでは、そういうやり方はしておりません。ただ、無作為抽出でやっていますので、ばらついていろんな年代の方には出せているとは思っております。

◎鹿子木委員 ありがとうございます。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎荒城委員 このたたき台に書いてある今期の議題が若者の市民参加を進めるための施策についてとあるので、市民アンケートをするのにどうして対象年齢を設けなかったんだろうという疑問が。

◎事務局 この市民アンケートそのものは若者の市民参加ということに絞って実施するアンケートではなくて、あくまでも市の今後の新しい10年間の計画を、方針を作っていく上で、広く市民の方に御意見を聞かせていただきたいということで実施しますので、幅広く御意見をいただきます。同時に、こちらの若者の市政参加を考えていく上でも、このアンケートの結果の

分析は必要といたしますか、いろいろ活用できるようなことはないかということでの御提案と考えております。

◎**荒城委員** ありがとうございます。

◎**渡邊副委員長** 今の事務局からの説明にあるように、市民アンケート調査はあくまで長期総合計画の策定のためのものなので、この委員会のためのものではないということです。ただし、若者の市政参加を考える上での基礎資料になると思って分析を実際に行って、この場でも議論したらどうですかという提案になります。なので、9月の速報に間に合うかはわからないんですが、年代別の分析結果というものをぜひ出していただきたい。最悪、あるいはローデータを私にいただければ分析しますので、それをやっていただきたいというのがこちらからのお願いとなります。ただ、おそらく普通にこういった計画をやりますと、本当にいわゆるタンシューという、ただどういふふうにリプレイしたかだけになっちゃうんですが、もう少し若者の分析を入れるとか、さらに別のヘンシツを加えた分析等を行ったものをぜひ見ながら、この場で議論する必要があるのかなと考えております。

◎**日向委員長** ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

今までの議論を整理したものなので、こういうものが入っていないというのも結構ですし、いや、こういうことも必要だと、新しいものもつけ加えていただく分には全然構いませんので、作っていながら逆のことを言って申し訳ないんですけども、この枠組みにとらわれることなく、まだ会議が始まって間もないですので、ぜひ御自由にいろいろ御発言いただければと思います。

いかがでしょうか。

それでは、一応、1時間弱たちましたので、休憩を入れさせていただこうと思いますけど、よろしいでしょうか。

そうしたら、休憩させていただきます。25分再開でよろしく願いいたします。

( 休 憩 )

◎**日向委員長** それでは、再開いたします。

引き続き、「市民参加条例運用状況等について」、(1)「今後の審議について」を議題といたします。

今まで3番までと、あと、渡邊副委員長の補足資料を中心に御意見を頂戴していました。渡邊先生、当面の日程のところの7月のところのワークショップの呼びかけなどへの提案について、どういうイメージだったのか、先生のほうからお願いいたします。

◎**渡邊副委員長** 4の当面の日程(予定)の7月の後半、ワークショップの呼びかけなどへの提案についてなのですが、ここは予算が通っていないということなので、本当にやるかやらないかは議会の判断次第という形になりますが、一応、通ったと仮定して、そうしますとワークショップの呼びかけが行われます。12月ぐらいに、まさにこういうものを今後作るので、い

ろいろと市民の意見を聞きたい、あるいは市民でぜひ一緒に考えていきたいというワークショップの呼びかけが行われます。じゃあ、誰にどのような呼びかけをしていくのかというのが当然ながら課題になるわけです。例えば、前回、公共施設等総合管理計画でワークショップが行われたと思いますが、たしかそのときは若者の層に倍ぐらい、無作為で呼びかけを行ったときに、若者のほうに厚目に送ったんですね。そのことがどう功を奏したのかはちょっと微妙なところではあるんですが、ただ、確かに若い方にも参加をいただいていた。今回の場合、どういうふうにどういう経路を使って呼びかけをしていくのかという点について、皆様の御意見を伺っていったらどうなのかなと思っております。

例えば、今ありますように、ある程度、ランダムに市民に呼びかけていかないと、結局、今度の計画を作るときに、ランダムにしないと、要は非常に意見がある一部の方だけが来ちゃうという現実問題があって、意見がある方はとても大事なんですけど、それだけだと、ちょっと全体の意見にならないので、ある程度、無作為に選んだ方々にも呼びかけをしたほうが良いと思っていますが、その場合、若者を本当に手厚くしたほうが良いのかという点は、やはり判断のポイントですし、今回の場合、大学等の話も出ていますので、大学にももっと積極的に呼びかけたほうが良いかどうか、あるいはSNSについても、ツイッターで発信するだけでいいのか、そのあたりも含めて、呼びかけ方ですね、ある程度、提案できることがあれば、あくまで提案ですので、通るかわかりませんが、こういったことを提案していくというのはあっていいのかなと思っております。ただ、もしその辺も御意見があれば、ぜひ御意見をいただければと、この場で皆さんで議論できればなと思っております。

◎日向委員長 ありがとうございます。

4番のことも、今、渡邊副委員長から触れていただきましたが、そこも含めて、何かお気づきの点があれば、ぜひ御意見をいただければと思います。

いかがでしょうか。

◎事務局 1点、事務局からよろしいでしょうか。

今、12月にワークショップを計画しておりますので、そのために、市としてもどんな方に参加いただけるかということで、参加いただける方を集めていかなければいけないなと思っております。それで一つには、今、実施しています市民アンケートの中に、こちらが届いた方で12月にこういったワークショップのイベントを実施しますので、参加いただける方がいましたら、市のほうに申し出てくださいというような形で送らせていただいたアンケートの中に記載をさせていただきます。ですので、そういった方で、出ていただけるという方がいれば、ぜひ12月にお願いしたいと思っています。

それから、市民の方に無作為抽出でお送りしております2,000人のアンケートと、これとは別に大学生の方にも、中身がまた少し違うんですけども、アンケート調査を実施させていただいております。こちらにも同じように12月にイベントがあった場合に参加していただける方はお申し出くださいという形で募っております。今現在はそういったことをやってお

ります。ただ、お申し出いただける方がいるかどうかというのはやってみないとわからないというところがございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

では、皆様方、ぜひお気づきの点があれば御発言いただければと思います。

◎鹿子木委員 2の①の大学生を中心とした方々へワークショップを呼びかけるといったところは、やはり大学と協力したりとか、SNSが効果的かなと思うんですけども、②の20代後半から30代の方々については、私が感じたのは子育て世代が多いので、例えば子どもと一緒に行く児童館とか、そういったところと連携がとれるのがいいのかなと思うんです。私が感じたのは、ママ友というんですかね、そのつながりってすごいですよね。ちょっとしたことでいろんなところに情報網があるので、それも一つのSNSじゃないですけども、そういった活用ができるのかなと思うので、もうやっていたらあれですけども、児童館とか、そういった子どもが集まるような場所に何かできると、またいいのかなと思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎荒城委員 SNSでツイッターってあったんですけど、ツイッターだとイベントの開催とかは発信はできるんですけど、どんな人が興味あるかとかは見れないと思うんですよ。もちろん、いいねを押してくれる人はいるかもしれないんですけど。フェイスブックだと、興味があるとか、参加したいとか、そういうのが選べる機能がついていて、イベント発信をするのによくアルバイト先で使っているの、ぜひ使ってみたらどうかという提案です。

◎日向委員長 ありがとうございます。

◎渡邊副委員長 今の荒城委員の意見はすごい大事だと思っていて、ツイッターって流れていくんですね。なので、リアルタイムの情報発信には非常に向いているんですけども、呼びかけには、正直言って、あんまり向いていない。よっぽど集客がある、フォロワーがものすごく多い人だったらそれでも向くんですけども、おそらくなんですけれども、小金井市のツイッターのフォロワー数はそこまで多いとは思わないので、そうすると、流れちゃうと思うんですね。であれば、フェイスブックのスケジュールでイベントの呼びかけのようなものを行うとか、あるいはもっとツイッターからできるだけ定期的に発信して、ホームページ等に誘導していくとか、使い方を多分、考えていったほうがいいのかと思っております。短期間でフェイスブックを開設できるかというのは怪しいところだと思うんですが、ぜひ少し前向きに動いていただけるといいかなと思っております。

何かあれば事務局からお願いしたいと思います。

◎事務局 正直、短時間でフェイスブックの活用というところまで行けるかというと、ちょっとなかなか何とも言えないところもあるんですけども、今、先生のほうからありましたツイッターからホームページへの誘導とか、そういったところは既に小金井市でも活用しているものですので、そこの工夫というようなことは考えていかないといけないのかなと感じました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

私、発言していいですか。今の件で、思いついたんですけれども、もし小金井市さんで開設するのが難しければ、開設している市内のいろんな機関に協力をお願いするというのも、多分、すぐにできますよね。例えば東京学芸大学のフェイスブックって、どれだけ充実しているのかわからないんですけれども、そういう御依頼があれば、いろいろ協力させていただくことは可能ではないかと思しますので、もし自分のところで開設が難しければ、市内のいろんな機関に協力をお願いするというのも。

発言してすみませんでした。ほかにいかがでしょうか。

◎村田委員 ちょっとうまく説明できるかわからないんですけど、ワークショップというのは意見を吸い上げるための手段だと思っています。一方で、参加していただいた方に小金井市がよくなったと思っただけのためには、ワークショップで発言された意見がどう市政に反映されているのかというのを継続的にフィードバックするようなものが何か必要なんじゃないかなと僕は思っています。この会議の中でも、前々回かその前かはちょっと忘れましたが、インセンティブみたいな話があったかと思うんですけれども、そういうのを考えると、やはり議論、要は発言した内容をどうフィードバックするかという視点はこの検討の中にあってもいいんじゃないかなと思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎荒城委員 今のやつに重ねてなんですけど、そのフィードバックがもしこういう紙とかで返って来た場合に、例えば市民の立場だったとして、自分が出した意見が改善されていった、紙で返ってきたときって、すごい無機質な気がするのかなと考えていて。ある鉄道会社さんで、お客さんの窓口で吸い上げた意見がこうこう反映されましたよというのをすごいポップな広告にして車内に張りつけていたんですね。そういう視覚的なうれしさというのものもあるのかなと思って。よく市の人だと、こういうの、作りがちなのかなと思うんですけれども、そういうところも変えていったらいいのかなっていう意見です。

◎日向委員長 はい、ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

今、荒城委員から発言があったフィードバックの仕方、ポップなやつというのは、それは何かイメージがわからないので、もう少し詳しく説明してほしいんですけれども。大体、多分行政がやると、一つ一つにこうなりましたという感じになるんですけど、今の御発言を聞いていると、そうではないですよね。発言された中の一部がこうなりましたという感じでフィードバックしているというイメージでいいんですかね。

◎荒城委員 例えば鉄道会社だと、トイレに消毒液が欲しいという依頼がたまたまあったらしいんですね、その報告によると。で、消毒液を設置しましたよというのを写真に載っていて、その鉄道会社のキャラクターが載っていて、ありがとうございますというチラシがあって、

それが毎回更新されていくんですよ。今回はこれです、今回はこれです、いついつあって、この期間で達成できましたみたいな、そういうのがあると、あっ、こういうのができたんだなみたいな。それは電車のお話ですけど、もし市の広報とかでつけられるんだったら、そういうのでもいいのかなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょう。

◎村田委員 今のITとかのトレンドを見ると、ボットというサービスがありまして、それぞれ個人個人の問いかけに対して答えを返すみたいなサービスがあります。例えば今回市民一人一人に対して市が個々に答えていくみたいな個人個人のつながりを強く持たせるような仕掛けが提供できると、すごい斬新なサービスになるんじゃないかなと思いました。一つのアイデアですね。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ちなみに、すみません、ボットって初めて聞いたんですけど、もう少し情報があれば、こんなイメージのものですって。

◎村田委員 例えば、あるワークショップに参加されました。いついつこういう発言をしたんだけど、どうってチャットに打ち込むわけですね。そうすると、こっちのボットサービスのほうが自動応答するわけです。要は、あなたの意見はまだ検討中ですみたいな。そのうち、実際に議論が始まって、何か実行されましたという、そのときにボットサービスのほうから委員のチャットサービスのところに、あなたの意見はこういうふう採用されましたよみたいなことが返っていくみたいなサービスがあるんですね。例えば、ワークショップの結果だけを返すボットサービスにすると、利用頻度というのは非常に下がってしまうと思うので、大学生活のQ&Aみたいなやつと一緒にそろえて、小金井市生活のマニュアルみたいな感じでうまく提供して、ほかの利用頻度の高いサービスとくっつけ合わせると、より密接なつながりが作れるのかなと思っています。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 今、いろんな委員の御発言を聞いていますと、SNSに関すること、例えばフェイスブックであったり、今、おっしゃったボットであったりということだと思っんですね。それを例えば実現するにはどういうふう考えればいいのかというと、市の組織として、その辺のITに対する組織的なものでどういう受け皿というか、市のほうでどういうふうに対応していくかということが問題になってくると私は思っんですね。それについては、例えば市のほうでITの関係でどういうセクションがあって、今、どういう取組をしているかということまで深掘りしていかないと、実際、我々、こうやっていろいろSNSについて発言したとしても、それは絵に描いた餅になってしまうと思いますので、逆に質問なんですけれども、市のほうとしてITに関する専門の部署があるやなしや、あるいは現状、どうした取組をされているか、あ



るいは予算的なものでどのくらいかけておられるとか、その辺をちょっと事務局のほうにお尋ねしたいと思いますが、いかがなものでしょう。

◎日向委員長 事務局、いかがでしょうか。

◎事務局 ITの関係については情報システム課という部署がございます。ただ、中心となるのは庁内のネットワークについての管理とか運営とか、それから今、外部とインターネットでつながっていますので、セキュリティーに関する事とか、そういったことについては担当する部署がございます。その部署で、今現在はSNSですとか、そういったことについて広げていくといえますか、そういった検討というのはなかなかされていないのかなというのが私の印象です。

◎中村委員 ということであれば、やっぱり実現するに当たっては、組織的な人数を増やすとともに、予算もやっぱりつけていただかないと動かないと思うんですね。その辺がちょっとキーポイントじゃないかなと思います。

あと、今、お聞きしている中では、どちらかというとし役所の内部的なことがもっぱらで、対外的なことはあんまり。

◎事務局 そうですね、SNSとか、そういったことへの対応というのはどちらかというに進んでいないといえますか。

◎中村委員 であれば、市長がトップになると思うんで、これまでの古い考え方でなしに、新しい時代に対応していくような形でトップダウンでいろいろ組織を変えていく、あるいは予算をつけていくという形に持っていけないことには、我々がせっかく論議しても、さっき申し上げましたが、それは絵に描いた餅になってしまう。その辺をぜひお願いしたいなというところはあります。

◎日向委員長 ありがとうございます。

何かもしあれば、天野委員、加藤委員、もしくは事務局。特によろしいですか。

◎天野委員 ホームページの話をさせていただくと、これまで情報システム課というところが所管していて、割方、システムという観点でホームページをやっていたんですね。それをこれからシティプロモーションの観点ということで、ホームページのほうも仕様を再建していく観点で、広報秘書課とともに所管を変えました。なので、我々も今後、戦略的な市の広告だとか宣伝だとかというようなことはやっていこうという雰囲気というか文化にはなりつつあるということをお話しさせていただきます。市長のほうも割方、お若いので、そういったことに興味はあるんですけども、一方で、さっきうちの課長が言っていたセキュリティーの問題もありまして、かなりオリンピックに向けてサイバー攻撃的なものが増えています。そういった形で慎重にならなければいけないような部分も踏まえて、しかしながら、市として、今後、小金井市を内外に広めていくというような方向性は持っているということは補足でお話しさせていただきます。

◎日向委員長 やはり若者の市民参加ということを考えていくときには、コミュニケーション

ツールがこれまでのツールでない形というのは、ある程度、考えていかざるを得ないのかなと感じています。私も大学にいますけれども、SNSとかインターネットとか、紙媒体でない形でのやりとりというのはかなり増えてきているというのが実感ですので、そのあたりは若者の市政参加を進めるに当たって、同時に考えていかざるを得ないところなのかなとは感じております。

ほかにいかがでしょうか。

3番の検討事項のところで大体触れていただいているとは思いますが、もし何かそれ以外にもこういうことをつけ加えてほしいとか、あるいはまた何でも結構なので、ぜひ。

指名して恐縮ですが、本田委員、いかがでしょうか。

◎**本田委員** 私の頭の中でまだ市民参加とワークショップがうまくあいにつながらないというところがありまして、何をどうやってワークショップをやっていくんだろうというのが、すみません。

◎**日向委員長** ワorkshop以外のところでも結構です。今まで市民参加推進会議はワークショップについて議論、検討を深めてきたというところがあって、ワークショップというのを出していますけれども、当然、それ以外の手法もあると思いますので、ここにも幾つかアイデアを書かせていただいておりますけれども、ワークショップに限らなくても結構なので、何かあればぜひ。まだあれであれば後ほど。

◎**本田委員** なかなか浮かばないので、すみません。

◎**天野委員** どういうふうにやっていいのかわからないんですけれども、少しこの場で議論できたらいいなと思っているのがダイバーシティというか、例えば若者であっても、外国人の方の参加みたいなことも大きなテーマだったりするので、今、多世代交流の推進というのが入っているんですけれども、多様性の交流というか、そういった観点、どこか、どういう形でやっていいのかわからないんですけれども、そんなことも少し話し合うことができたらいいなと思いました。

◎**日向委員長** わかりました。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

ちなみに、小金井市さんでは外国籍の方とのコミュニケーションをとるためにこんなことをしていますみたいなものはあるんですか。この時点でわからなければ、また後で結構です。

◎**事務局** ちょっと今、情報を持ち合わせていませんので、持ち帰らせていただきたいと思います。

◎**日向委員長** わかりました。

◎**鴨下委員** 私の記憶だと、うどんか何かを作るのありましたよね。それで交流をして、参加人数が何人だみたいな記憶がちょっとこの辺にあるんですけれども。何でうどんなのかなって。小金井、うどんなのかな。

◎**日向委員長** 小金井しあわせプラン、127ページに出ているようです。うどん打ち体験会。

外国籍市民への生活情報の提供を充実するとともに、各種の講座やイベントなどを開催し、外国籍市民との交流の輪を深める。

◎**渡邊副委員長** ちょっと今の天野委員の御提案に少し確認をとらせていただきたいと思いません。

ダイバーシティの参加というものをどう行うかということなんですが、このお話、多分、外国籍の方、あるいは外国文化が長くなじんでいる方の参加というのを、あくまで市民参加の文脈として考えていらっしゃるということなのか、交流という文脈で考えているのか、これはちょっと大きいポイントだと思うんですね。すなわち、ポットでぜひやったほうがいいと思っています。ただし、何で市政への参加に外国人を入れるんだみたいなことを考える人も出てくるので、そのあたりを見ますと、全体の交流で考えているのか、施設段階で考えているのかということがあります。

もう1点は、ダイバーシティって、かなりいろんな文脈がありまして、もちろん、外国籍の方もそうですけれども、例えばLGBTといわれる性的マイノリティーの方とか、あるいは障がいのある方なんかでも、実は障がいがあったって、別に市政参加しても全く問題ないんですよ。むしろ、福祉のことだけに興味があるとは全然限らなくて、別に障がいがあったって、もし参加経路があれば、普通のことに関しても言いたいことがあるんだというのも全然あってもおかしくない。ダイバーシティって、多分、いろんなレベルのことがあるので、それもあくまで市民参加の話なのか、交流としての話なのか、ちょっとそこだけ確認とらせていただきたいなと思います。

◎**天野委員** 今、これから小金井市として第5次基本構想という最上位計画を作るということがあるんですけども、そういった市の計画を作るに当たっても外国の方だとか、LGBTの方だとか、障がいをお持ちの方だとか、多様な人からの御意見を踏まえながら、そういった計画を作っていくのがいいのではないかという思いがあったので、交流というのは外国人の交流を所管しているコミュニティ文化課というところがあるので、そちらのほうでやっていただくとして、私どものほうとしては、そういった方の御意見、どういった思いを持って小金井市に住んでいらっしゃるのかというようなことはやはり聞いてみたいなというような素朴な思いがあります。

ダイバーシティというからには、今、副委員長がおっしゃったとおり、いろんな方が住んでいる社会に参加していく社会を我々、共生社会という形で目指しているもので、どこまで広げられるとか限界はある、この市民参加推進会議という場であるんですけども、ちょっとそういったことも意識していきたいというぐらいで、とりあえず押さえておきたいと思います。

◎**渡邊副委員長** まず、発言の趣旨はよくわかりました。すごく重要な提案だと思っています。多分、幾つかあると思うんですね。例えば、外国籍の方、あるいは外国の文化がなじんでいる方の場合ですと、参加の場合のハードルを下げるとするのがすごく重要です。すなわち、これは市の職員にはものすごくハードルを上げるんですが、じゃあ、例えば日本語以外のことを可

能とする、あるいは通訳をつける、あるいはちょっとした議論をするときに、何でこんな議論をしているのかというのがわかりにくい場合があると思います。そういうときに、何でフェイスブック一個、簡単に作れないんですかというのもすごく単純に言われる場合もあるかもしれませんが。そういうふうな文化の翻訳みたいなものをしていくようなものをちょっと入れることによって参加しやすくなるという部分はすごくあるので、例えばものすごく単純に言えば、多言語でポスターを出すとか、そういった幾つかのハードルを下げるというのは考えられるのかなと思います。あるいは、テーマをちょっと外国の方なんかの参加しにくさを皆さんと一緒に議論してみませんかというところからスタートするのがいいと思います。

あともう1点なんですけれども、特にLGBTの方とかの場合、すごく重要な関心があると思っていますんですが、じゃあ、その立場で参加すると、イコールカミングアウトを強制しているみたいなのところもあるので、例えば思い切ってなんですけど、ネット上でワークショップをやるみたいなのを考える。もちろん、顔を見ながら議論するというのはすごく重要なんだけど、逆に顔を出さずに、自分が誰かわからないからこそ初めて言えるみたいなのところも多分あると思うんですね。なので、例えば市民参加を考えるときも、そもそも若者も関心を持っていますので、ネット上で議論できる。もちろん、それは結構危ない議論が出てくるかもしれないので、若干、フォローしておく必要はありますが、例えばそういった場なんかでセクシャルマイノリティーとか、あるいはセクシャルに限らない、さまざまな多様なマイノリティーの方が顔を出せずに発言できる、安心して発言できる機会を1個、場所として用意するというのも、これはかなりハードルが高いと思うんですけれども、おそらくまだどこもなかなかできていないと思うんですが、結構あるのかなとも思っています。そのあたりも、これはすぐというよりは長期的な展望として、多様な方が安心して参加できるような、あるいは安心して意見が言えるような仕組みというのを考えるというのは、私はあっていいのかなと思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 今、副委員長がおっしゃったように、やっぱりダイバーシティというのは非常に大事な側面であって、どこかの政治家じゃないですけども、排除しますんじゃなしにオープンであることが重要だと思うんですね。そのためには、ついて回るのは、私、市の職員じゃないですけど、コストだと思うんですね。結局、例えば、今、おっしゃったように多言語に対応するためにはワークショップを開くに当たって通訳をつけないといけないとかありますし、例えばハンディーキャップを持った人に対してはユニバーサルデザインというんですか、それをするためにはお金がかかると。その辺のお金をかけなければならない、でもやらなければならない、その辺の兼ね合いをうまくバランスをとっていかなきゃならないと市の職員の方には切望いたします。やっぱり排除でなしにオープンである、みんなが参加できるようにするためには、やっぱりそれなりのコストを市のほうとしては確保していただきたいというふうなところがあります。ただ、私は排除するのではなしに、参加するためには門戸を開放して、できる

だけ間口は広げる必要があるんじゃないかというスタンスで、この会議でもそのスタンスを持って議論していく必要があるんじゃないかなと。例えば少数者であったり、あるいはハンディーキャップがあったりとか、そういう人を排除するんじゃないしに、取り込むために、市政というのはそのために機能しないといけないんじゃないかなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎加藤委員 ちょっと一個だけ。

今期の議題が若者の市政参加を進めるための方策ということで、実は私、4月に総務部長になる前に議会事務局にずっといまして、実は市政以上に市議会って若者が全く興味を示さないという実は課題がありまして、そこでちょっといろんな先進市のことを調べてみようということで、今日の対象とする年齢層、大学生中心から20代というのが一番下ですけど、そのときに大阪の八尾市議会ってあって、ここは実は八尾高校の書道部とコラボして、これ、市議会だよりなんです、市議会だよりの表紙にその書道部が書いたものといってこういうのをやり始めて、その後、ここは市議会の模擬選挙とか、市議会議員になるためには劇団員による候補の演説を聞いて、誰に投票しますか、こんなものやって、もともとは二元代表制、市議会と執行機関との、市議会というのはこういう役割を担っていて、しかも、ちょうど選挙が、いわゆる18歳に年齢が引き下げられるということで、そういうところにも合わせて興味を持ってもらおうということで、こういう取組をしているというところがあって。市議会だよりって、市報と一緒にですけど、全世帯にこれって配布されて、普通は市議会だよりって、あっ、何だこれって、多分、見ないというのが多いのかなと思うんですけど、これは高校生がこういう形で、しかも当然、本人の了解を得ていると思うんですけど、全部、生徒さんが載っているような形ということで、興味を引くという一つのツールに積極的かつ、今日は多様な広報と書いてあるんですけど、議会としてもそういう形のものがある意味ではその効果が期待できるということと、ここに出た方の、先ほどの模擬市議会とか、そういうのに参加した高校生にアンケートをとっているんですね。今回の参加をきっかけに議会を傍聴したりインターネットで議会の映像配信を見るなどしてみたいと思いましたかということ、積極的にそう思ったというのが21%、できればしたいと思う66%、両方で8割ぐらい、これは高校生ですけど。多分、この先にこういう高校生が徐々に増えていくと、当然、その高校生は大学生、20代前半にシフトしていくわけで、そういう意識を持った人たちが、これは市議会ですけれども、結局、市議会で議論しているのは何かというと市政の中身なんです。なので、それをもとに議会にもまた市政の中身にも興味を持ってもらえるという複合的なものを狙って。しかも八尾市さんは、これは実は市報なんです。A4版でうちとはちょっと違うんですけど、何が目が引くかということ、ここに市議会だより合併号と書いてあるんですね。つまり、中に市議会だよりが途中から出てくるんですよ。市報でありながら、中を見ると、途中から市議会だよりというのが出てきて、一つにまとまっていると。これは合併号ということで毎回やっているわけじゃないらしいんですけど

ども、こういうところで、多分、先ほどの高校とコラボしたり、また、ここは小学生を対象としたお仕事体験みたいな、そんなものも八尾まめっこ議会というんですかね、小学生を対象にした、それはお仕事体験も含めてみたいなこともやっています。いわゆる議会というと、議員って何やっているのか、市政以上にわからないところが、興味もないところがあって、こういうものを使って、高校とコラボして、一つの部活をまずは企画の初めに持って行って、多分、これ以降、また、いろんな企画をやっているんだと思いますけど、というやり方を、なるほど、若者を市政参加じゃないですけど、こちら、議会ではありますけれど、そういうやり方があるって、議会の広報ってなかなか難しく、なるほど、市議会日より、まずはこういうのを載せて行って、多分、ホームページにそのまま載っているんで、若者もホームページで見るとし、ある意味では全世帯に配られるので、御高齢の方が、あれ、どこかで見たことがある子だなとか、あそこの高校生かなというので気を引くと、そういう相乗効果もあるという意味では、なかなかおもしろい取組をされていて。市議会のことをあんまりここで言っちゃうとあれなんですけど、議会の中でも実はそういう必要性があるということで、議会改革という話で実は議会の中でも議論してしまして、その一つの方策として、こういう取組がされている。多分、こちら辺も参考にして、今も議論していると思うんですけど、ちょっと紹介的なものになるんですけども、今日のたたき台の検討事項の3つ目のポチの連携協定大学じゃないですけど、これは高校ですけど、それとの働きかけですとか、あと②のポチの3つ目の積極的かつ多様な広報とかコミュニケーション——ちょっとコミュニケーションにはならないかもしれないんですが、そういう多様な広報の仕方という意味では、こんな例も一つ、参考にはなるかなということで、ここは市民参加推進会議なので、あまり市議会のことを言っはと思ったんですけど、前職にいたところで、もしかしたら参考になるかなと思って、紹介しようと思って、今日、持ってきたものです。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

今日の渡邊副委員長の資料の中に基本計画というのがあって、これ、長期総合計画のことなんですけれども、事務局の方から配ってもらった資料です。

今、加藤委員の御発言を聞いて思ったんですが、今回想定する若者の年齢層というのは、大学生を中心とした20代前半とか20代後半から30代前半なんですけど、議論が拡散するので言うのをどうしようかなと思ったんですけど、要はそれ以前から、市政というものに興味を持ってもらうために高校生とかにもアプローチしているというそういう例ですよ。

◎加藤委員 そうですね。むしろ、大学生とか20代の方というのは、多分、こういう形でのコラボとか、あとは実際に模擬の選挙云々といったとき、もう模擬じゃなくて、実際に選挙権を18歳で持っちゃうんで、なので、もともと小中高生ぐらいが市議会というカテゴリーで考えると、やっぱり一番、コラボしやすいところになっっているということの御紹介なので、直接、なかなか市政への参加ということだと、やっぱり市政参加と考えたときに、二十歳で

ここまでの対象を抑えていいのかなというのはちょっと疑問があるところではあるんですけど、ただ、こういう連携の仕方だとか、広報の仕方として、こういうような手法もあるという御参考になればという、そのような意味でお話をさせていただきましたので。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 ちょっとふと思ったんですけども、この会議というのは傍聴可能な会議だと思うんですね。例えば傍聴を可能にして、傍聴席をたくさん埋め尽くしてもらおうと。埋め尽くしてもらうに当たって、若者にたくさん来てもらうような仕掛けをするというのも一つじゃないかなと思うんですね。例えば、大学、あるいは高校とタイアップして、こういう審議会が何月何日何曜日、何時からあるから、ぜひ来てくださいということで来てもらう。それによって、発言はできないものの、先ほど天野委員がおっしゃったような質問シートで意見を出してくれたりというので、我々、どっちかという高年齢層、失礼な言い方ですが、よりも若年層の斬新なアイデアを吸い上げることによって、若者の市民参加を進めるための方策というのも違った視点から、若者の発想、切り口によって違ったものが出てくるんじゃないかなという気がするんです。ですから、そういう意味で、いろんな手段を講じて若者の傍聴を促すような、市の審議会でも若者の傍聴を促すような方策を練るというのも一つかなと思いました。ちょっとぱっと思いついたので。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

来て早々恐縮なんですけど、一通り、皆さん、御発言をいただいているんですけど。もしなければ結構ですけど、何かあれば。後にしますか。

◎岡田委員 そうですね、もうちょっと後でもいいですか。

◎日向委員長 2時間だと8時半まで、あと16分なんですけど。すみません、追い込むつもりは全くないんですが。

◎岡田委員 私も今、後ろから入ってきて、傍聴席がどなたもいらっしやらなかったのは、実は気になっていて、本当に中村委員がおっしゃったとおり、傍聴に来てくれるという部分の努力というか、少しあったほうがいいんじゃないかなと思いました。

◎日向委員長 事務局、すみません、ちなみに傍聴というのは小金井市在住者に限らないということですか。

◎事務局 特段。

◎日向委員長 誰でも大丈夫なんですか。

◎事務局 誰でも大丈夫です。特に決まりとかはありません。

◎岡田委員 本当に途中の最後のほうだったのでわからないところもあるんですけど、加藤委員が高校生くらいの年齢層からのアプローチということをおっしゃっていたので、どういったものかというのは、その辺は聞けてないんですけども、私、この紙をいただいたときに、年

年齢層を少し持ったほうがいいんじゃないかという話で進められていたと思うんですけど、実現可能なものプラス本当に将来的に可能かどうかわからない部分でもというのは何個か出してもいいのかなというのと、あと、何度か話にも出た、中村委員がおっしゃっていた大学生さんとかがお年寄りの家に一緒にルームシェアするような、なかなか実現となると、この一、二年とかで私たちができることではないんですけど、提案としてはすごく何度もそのお話が出ているので、おもしろいんじゃないかなと思って、ここに来ました。

◎加藤委員 先ほどの高校生というのは、私がたまたまこの総務部に来る前に、3月まで議会議務局にいまして、そのときに、いわゆる市政以前に市議会というのに若者が興味は市政以上がないと、いわゆる議員ということに対してですね。何とか若者が市議会に目を向けるような他市のそういう先進事例はないかということで、そこでたまたま大阪の八尾市議会というところの取組として、先ほどの高校生のその時の直接の議会でのことなのであまりそのことを細かくは言っちゃいけないと思っていたんですけども、ただ、そういうこの中にある積極的、多様な広報だとか、ほかとの連携、大学への働きかけというものの一つの手法の参考になるかなということで、こういうような取組をしているのが市議会としてありますということで、ちょっとお話をさせていただいて。ただ、それが若者の市政参加で高校生まで単純に広げたらいいかというのと、そういうことじゃなくて、手法としてこういうことを、しかも、これは市議会としてやっているものなのでということで、お話をさせていただいていたということです。

◎岡田委員 ありがとうございます。

◎渡邊副委員長 今までの議論を聞いていて、一つ、ちょっと思うのは、人間って利害がないと参加しないと思うんですね。例えば荒城委員が言われたのがすごくおもしろくて、ポップな広告になる、先ほどから議論がなされている積極的な広報だけじゃなくて、かなり重要なのは、意見を言ったらフィードバックされたということがわかりやすく目の前にあるということだと思うんですね。それこそ、荒城委員を出してしまっただけで申し訳ないんですけど、例えば私なんて若くてこういった形で市民委員として参加したら、例えば私の意見が本当にポップな広告になりましたみたいなものを出す。そうすると、あっ、これって、参加したら何か動くのかもしれないという実感が伴うと、参加する気になると思うんですね。まさに、今の発言を広告にしちゃうみたいなものも、これはまさに積極的な広報だと思うんです。要は、理念だけで市政に参加してくださいと言っても、よっぽど問題意識がない限り、普通、参加しないですし、問題意識があったら、やめてくれと言っても、保育園の問題とかあったら、がんがん意見が来ちゃう。すなわち、利害があって初めてですし、何か意見を言ったときに変わると思って、多分、人間ってやるので、やはりそれをかなり意識しながらやっていったほうがいいのかなと。そうじゃなければ、おそらく高校であるとか大学であるというのは構造的に強制的に、ある意味、本人がやりたくなくても、強制的に参加させるけど、そこにおもしろさがあるって、ちょっと続ける気になるところなので、多分、ちょっとやり方が違うと思うんですね。おそらく両方を両輪で動かしていったほうがいい。もともと利害がある人間にそれをうまくやったり、あるいは構造



的にやるという方向と、あと、あっ、これやったら、何か変わるかも、おもしろいことが起きるかもと思わせるような、おそらく積極的な広報は多分、こちら側にすごく効くので、そのあたりもちょっと意識したり、あるいは少し行政側も間違っただけを言っちゃいけないとか、全員が意見を平等に扱わなきゃいけないではなくて、ちょっとおもしろい意見は特出ししましうみたいな形でやれたら、少し変わる可能性があるのかなと思います。なので、全てを平等にしなければいけない、行政はどうしてもそういうところがあるんですけども、積極的な広報というのは意識を変えて考えていったほうがいいんだという点は、今回の提案の中に少し入れてもいいのかなと感じました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

御意見は後半になってきて盛り上がってきているような気もしますが、時間も限られておりますので、今日のところはここまでとさせていただきます。

何か言い足りないとか質問があれば、事務局のほうにメール等でお尋ねいただければと思います。

それから、このたたき台については、あくまでもこれまでの議論を整理するとともに、また今後に向けて、これをベースにいろいろまた新たに意見を言っていただく、その取っかかりという意味で作らせていただきましたので、今後も何かお気づきの点があれば、御遠慮なく御意見を言っていただければと思います。

以上で、次第2の「今後の審議について」をとりあえず終了とさせていただきます。

次に、次第2の(2)「次回推進会議の日程について」を行います。

協議のため、しばらく休憩します。

( 休 憩 )

◎日向委員長 それでは、再開いたします。

次回は10月19日金曜日、時間はどうでしょうか。

◎事務局 今日は特別、6時半からにさせていただきましたが、いつもどおり19時からで。

◎日向委員長 19時から開催したいと思いますが、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎日向委員長 御異議なしと認めます。

時間は10月19日金曜日、19時から開催いたします。

本日の議事は全て終了いたしました。以上で閉会いたします。

(午後8時24分閉会)